

## 親子の笑顔が輝く、出会いが嬉しい 杜の家

「杜の家」は毎月第1水曜日、市ノ坪神社の境内に市ノ坪上町会館（令和3年新家屋に建て替え）にて小杉第2地区民生児童委員・主任児童委員で運営しています。新型コロナウイルスの影響により、お休みしていた期間もありますが、令和4年4月から開催方法を変更して再開しました。季節の行事や保育士さんによる読み聞かせなどのイベントだけでなく、参加者同士の交流を大切に、和やかでアットホームな時間が流れています。

### ごあいさつ

親子の笑顔が輝く、出会いが嬉しい杜の家をキャッチフレーズに子育てサロン活動「杜の家」開催してきました。季節の行事、節分の豆まき、五月の兜作り、七夕笹飾り、クリスマスミニコンサート等楽しく遊べる出会いの居場所作りに努め、お子さんの誕生日にはポラロイド写真をカードにして差し上げ、保育士による手遊び、歌、親子遊びをし、保育士による出張講座、ママの悩み相談等を展開してきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、一時中止となりました。

このような状況でも、中止期間中に安全安心の開催方法を検討し、令和4年4月に200回目を迎えた杜の家サロンは、リニューアルした市ノ坪上町会館として再開できました。

これからもお互いに安心して心地よく、気軽に無理なく楽しく、自由に親子が集える小さな居場所作りを構築してまいります。

小杉第二民生委員児童委員協議会  
会長 伊藤 孝子

### 現場のスタッフの声

令和を迎え、市ノ坪上町会館が新しく建て替え新たに「杜の家」の開催を楽しんでいたところ、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、今まで誰も経験したことのない事態を迎えました。「杜の家」もコロナ禍に沿った開催の仕方を模索しながら行っていくことが必須となりました。

今後、コロナ禍が落ち着き普通通りの「杜の家」の開催が出来る事を楽しみに「30周年」を迎えたいです。  
主任児童委員 御園 淳子

主任児童委員に就任して間もない私が「杜の家」の運営に関わるようになり、沢山の親子が楽しそうに参加する姿を見て、サロンが地域に根付き親しまれているのを感じました。夏には会館が新しくなる予定でしたが、新コロナウイルス感染拡大で約2年間サロンを運営することが出来ず、感染対策の為の消毒、人数・年齢制限・時間短縮など、これまでとは全く違う形態での開催を余儀なくされました。まだまだコロナ禍が続く事が懸念されている今、何が出来るかを試行錯誤しながら少しでも来てくれる親子に楽しんで貰えるよう努力していきたいと思ひます。

主任児童委員 斎藤 あき子



杜の家が開催される、市ノ坪上町会館は、東急線を見上げる線路わきにある、市ノ坪神社の中にあります、去年には新しく建て替えられ、歴の趣と新しい建物がマッチする様子は発展途上の武蔵小杉を表している様に感じます。ここから沢山の出会いが生まれ、働く子育て世代の応援が出来る事を嬉しく思ひます。

民生委員児童委員 金久保 公子



## 杜の家の思い出

杜の家で多くの親子と出会いました。「妻の方が収入が多いので」とパパが育休をとって来てくれた父子もいました。

そんな中で息子の嫁が第一子となる孫を連れて杜の家に来てくれました。その時仲良くなった5人の友達とは、食事会・お誕生日・クリスマス会等親交を深めていきました。生後8か月位で出会った子供達は今年で11歳になりました。杜の家に参加したこと、新たに友達に出会えたに感謝しています。

今はコロナ禍で杜の家の活動も中止になり、子育て支援が出来ませんが以前の様にママ達の力になれることを願っています。

民生委員児童委員 田口 裕美子

「親と子の仲よし交流会」として始まった、「杜の家」が20周年を迎え色々な事が思い出されます。一番最初に参加してくれたお子さんはもう社会人になっていますね。

当初から「季節の行事を大切に」と皆が楽しめるプログラムを考え、スタッフが飾り付けやおやつを手作りして、準備をしました。その中で私たちも学びがあり改めて伝統文化の継承の大切さを感じました。

状況の変化により開催形態等も変わりましたが地域の子どもたちが楽しく元気に成長してくれる事を願う心はいつまでも変わりません。

民生委員児童委員 末田 優理



私が主任児童委員の活動として、杜の家を担当して暫くすると、長女と次女が続けてママになりました。特に次女は中原区に住んでいるので、何回か参加させてもらい今時のママたちの本音も聞くことが出来ました。小杉駅周辺では大規模な開発が進んでいて子育て世代の若い夫婦が急激に増加していました。初めて住む中原区での親や友人もない中で子育てで不安が一杯のママも沢山いらしたと思います。

小杉駅に1番近い子育てサロン杜の家はそんなパパママ達の出会いの場であり、お手伝いしている民生委員や地域住民方の応援の場所であると思います。

ほとんどのパパママは育休後に職場に復帰し仕事・家庭・育児にと毎日奮闘して今に至っていると思います。そんな皆さまに心からのエールを送ります。

民生委員児童委員 金久保 公子



市ノ坪上町会館は、市ノ坪神社の境内にあります。和室二間の平屋建てで田舎のおばあちゃんのような雰囲気でした。若いママ達には座布団の感触が新鮮だったようです。子育てに頑張っているママ達が実家に帰った時のように始めました、ホットと一息つける場を作りたいとサロンを始めました。ママ達がスタッフを信頼し赤ちゃんを預け楽しげに談笑している姿も微笑ましく、たとえ初対面でも連絡先を交換し、サロン以外でも時間を共にするママ達の行動力にスタッフが元気をもらう事もありました。

私達スタッフからは専門的なアドバイスをする事はできませんが子育ての先輩として自分の経験を語る事はできます。十年近く前になりますが今でも忘れられないママとのやり取りで、入浴後の飲み物が話題になった時、私は何気なく「白湯を飲ませたは」と言うと返ってきた質問が「それどこで売っていますか」「私が売ってあげてもいいけど」と答えました（笑）隔世の感を強く感じた思い出です。

会館は耐震の問題もあり令和になって建て替えられました。コロナ禍が拡がり、現在も様々な制約に縛られています。困難な時代ではありますが、ママ達のホットと出来る場を確保できるように努力を続けていきたいと思ひます。

民生委員児童委員 坂本 令子